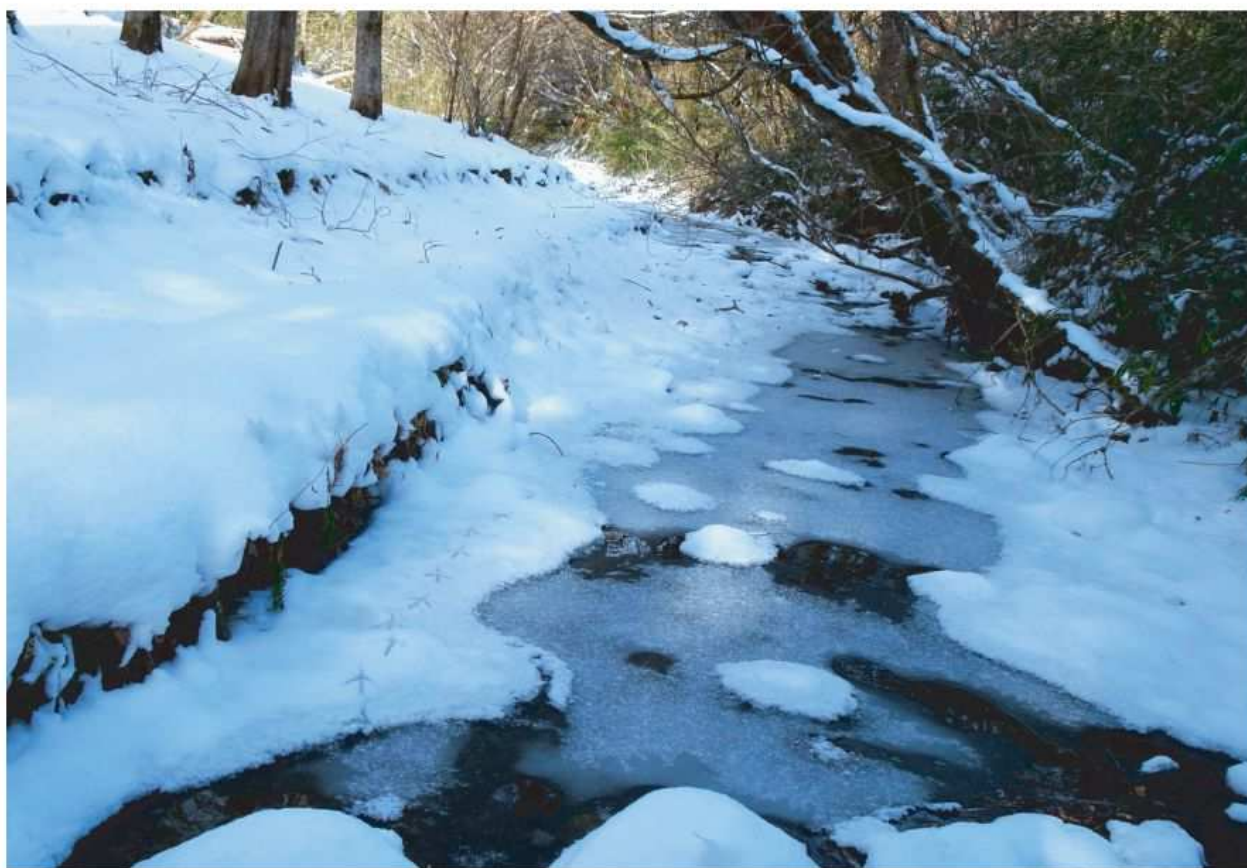


仙台市太白山自然観察の森 情報誌2026年2月号

森のおくりもの 2

NO.413 The Gift from Woods

トンボの沢に残された雪上の足跡



徐々に暖かくなり始める立春、雪が雨に変わり氷が解けて水になる雨水と森の生きものたちは春の準備が始まる月です。まだまだ2月は寒さが厳しく降雪もあり、雪の上に残される生き物たちの痕跡も、今月はあと何回見られるのでしょうか。仙台の1月の降雪量は2cm！乾燥に耐えている植物たちにとって、当たり前以降る雪が待ち遠しいのは私もです。【館長：佐藤由美】

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『無用の用（むようのよう）』

今シーズンの冬は寒さが厳しいですね。仙台で最低気温が -6°C になり、ここまで下がるのは3年ぶりだそうです。ニュースで今季最強最長寒波の襲来とか札幌や日本海側を中心に大雪が降っているのを見ました。雪が降り過ぎると除雪が大変で厄介です。仙台では大雪にならず胸をなでおろしました。反面、すぐ溶けてしまう程しか雪が降らないので、土壤の乾燥と水不足が心配です。

冬の森は、雪が積もっていなければ冬枯れの光景が広がっているだけで、変化や刺激が乏しいと感じるかもしれません。そんな森に、すごくたくさんあるけれど大抵の人は意識せず気にも留めないものがあります。それは落ち葉です。どこを見てもそこにあるのに、興味・関心がなければ存在さえ忘れているのではないのでしょうか。街路樹のある所では、落葉時期には落ち葉掃きをしてゴミとして処分されますが、本来はゴミではありません。

落ち葉は、直射日光から表土の乾燥を防ぎ、保温・保湿をして豊かな土壤環境を維持する役割を担っています。土壤動物や微生物に食べられて菌類により分解され、植物の栄養分となります。また、土壤動物をはじめ、様々な生物の棲み処となっています。最近では積雪量が少ないですが、冬には落ち葉の上に雪が積もり、更に保温・保湿効果を高める掛布団の役割をしています。溶けた雪がゆっくり土壤にしみ込み、地下水脈を通して少しずつ川に流れていくので、森は緑のダムといわれます。雪もまた単なる厄介者ではないのです。

中国の思想家の老子や荘子に由来する「無用の用」という言葉があります。「一見役に立たない、あるいは無駄に思えるものが、実は大切な役割を果たしていること」という意味の思想・教えです。

最近では、コスパだのタイパだのと効率性やすぐに結果が得られることがもてはやされ、無駄を省き短絡的に考える傾向にあります。全てがそれでいいのでしょうか。自然の中には無駄なものはありません。自分たちに不都合で必要ないと簡単に排除してしまう人間って、なんておこがましいんだと感じます。

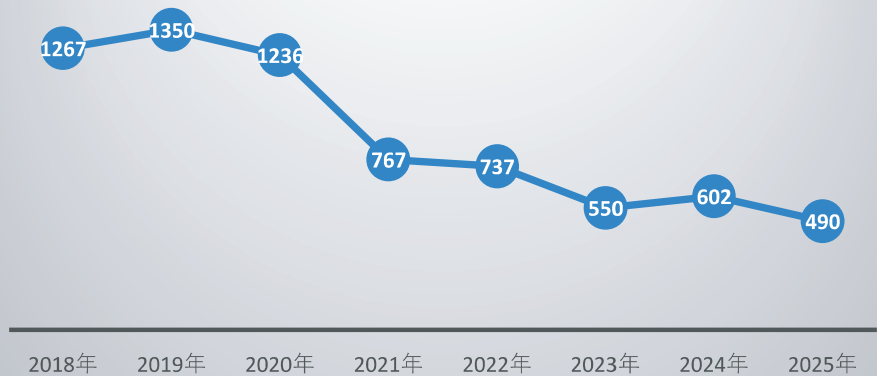
【レンジャー：新田隆一】



森の静寂が語るもの～8年間の野生動物調査から

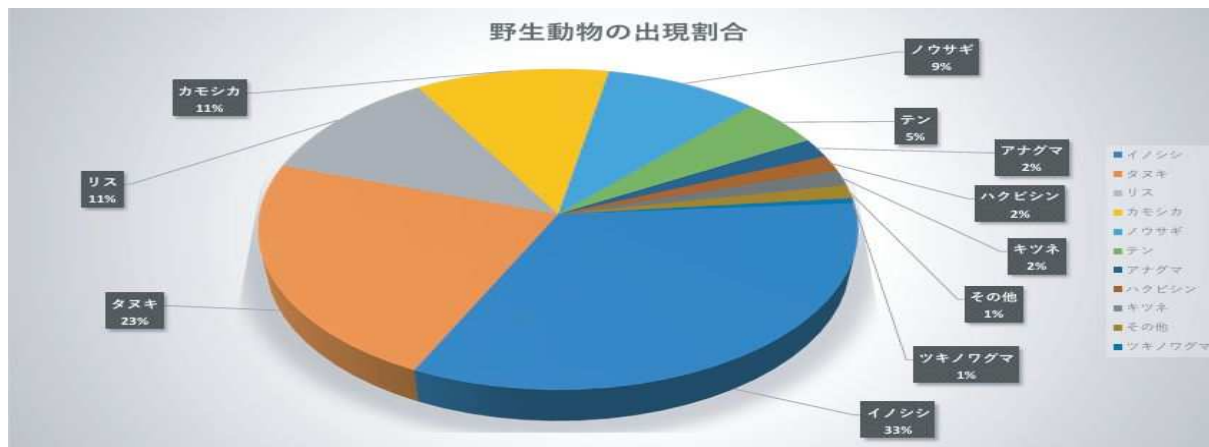
2018年から継続している野生動物の定点調査が、大きな転換期を迎えています。2019年には年間1350回を記録した出現数は、その後減少に転じ、2025年には490回とピーク時の約3分の1にまで激減しました。

年間の野生動物総出現数



出現の内訳をみると、イノシシとタヌキが全体の半数を占めていますが、これら主要種も減少傾向にあります。特にニホンカモシカの姿は顕著に減少しており、森の生態系に何らかの異変が起きている可能性を示唆しています。

野生動物の出現割合



一方で、昨今メディアを騒がせているツキノワグマについては、全体の1%以下に過ぎません。2025年の目撃は年間7回で、例年通り5月から11月に限られます。世間の不安とは裏腹に、当地域での出現状況は大きな変化は見られません。

年ごとのツキノワグマ出現数



特筆すべきは2025年12月、野生動物が1度も撮影されなかったことです。このかつてない「森の沈黙」は私たちに何を伝えているのでしょうか。データが示す冷徹な事実、私たちは真摯に向き合う必要があります。

【レンジャー：齋 正宏】

調査方法：センター内に5台のセンサーカメラを設置して24時間野生動物の生息状況を調査。動画撮影時間は30秒、インターバルを5分に設定して総撮影数を調べる。

森の「あれこれ」



「ゴジュウカラも出た」



右の写真はゴジュウカラ。スズメより少し小さくて青灰色の背中と橙色の脇、顔から首の下あたりが白、そして目の横を黒い線（過眼線）が通っています。

1枚目はとても曇って暗い日になんとか探した最初の1枚でした。フィフィという声で気づきますが、すごいのはその動きです。頭を逆さにして幹を降りることができ、左の写真ではそのまま歩いて視界から消えました。垂直な木でもエレベーターが下るように降りてしまう、キツツキの仲間でさえ不可能な動きができるのは日本の野鳥ではゴジュウカラだけ！その動き方だけで本種だとわかります。2枚目は別方向から飛んできた2個体のうちの1羽です。



観察の森では冬に観察されますが本来はもっと高い場所にいる印象の野鳥で、私がこの森に務めてからは2019年度に3回、2024年度に1回の記録がありました。それが今季は6回確認され、周辺では野草園や三神峯公園でも確認されています。



3枚目はずっと南の福島県桑折町で写したものです。いずれも標高100mくらいの場所ですが、どうして今季は多いのか興味がつきません。

【レンジャー：木田秀幸】

森は生きている



① 水辺の宝石と呼ばれるカワセミの亡骸を見つけました、いずれ森の一部となり土に還ります。② 樹皮の割れ目の上に緑色のゼリー状のクヌギカメムシの卵があります、その下に黒と赤の身体をしたヨコヅナサシガメの幼虫が越冬してます、いずれ食べられるのでしょうか。③ 寒い冬の時期にしか見られないシャクガの仲間です。④ コブハサミムシがいました、メスは越冬し卵を守り、幼虫は孵化すると母親を食べ栄養源とするそうです。⑤ ヒメバチの仲間でしょうか、集団で越冬してます。



立春を迎えると暦の上では春です、ときたま春の気配を感じる日もありますが、まだまだ寒さが続いています、長い冬を静かにじっと待っている森の生き物たちですが、一番待ちわびてるのは、寒さが苦手な私かもしれません。

【レンジャー：菅井 潤】



◆『ガイドウォーク』の終了のお知らせ

- ・毎週日曜日に実施している定例のガイドウォークは、3月をもって終了します。永らくのご愛顧ありがとうございました。

◆『自然感さつ専科「こけウォッチング」』

- ・2月28日(土) 10:00 ~ 12:00
- 【内容】こけを観察して小さな造形の美しさに気づき、自然の魅力を感じます
- 【対象】小学3年生以上 (中学生以下は保護者も参加)
- 【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、防寒具、歩きやすい服装と靴で
- 【申込み】Eメールにて2月17日(火) 必着で(抽選)

◆『おはよう野鳥かんさつ』

- ・3月14日(土) 6:00 ~ 7:30
- 【内容】早春の雑木林を歩きながら講師の案内と解説で野鳥を観察します
- 【対象】どなたでも (中学生以下は保護者と参加)
- 【持ち物】双眼鏡、飲み物、帽子、かっぱ、防寒具、歩きやすい服装と靴で
- 【申込み】Eメールにて3月2日(月) 必着で(抽選)

※申込み専用メールアドレス taihaku@sendai-park.or.jp 詳細はこのQRコードを読み取り



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



毎週
日曜は

『ガイドウォーク』の日！

開催日：1日,8日,15日,22日

開催時間：10:00~11:30

※時間までにセンター前へお集まりください

申し込み不要。飲み物、かっぱ、歩きやすい服装と靴で。

2月の休館日

2日、9日、16日

24日 毎週月曜日

※月曜日が祝祭日の場合、翌日以降の平日が休館



宮城交通バスの場合

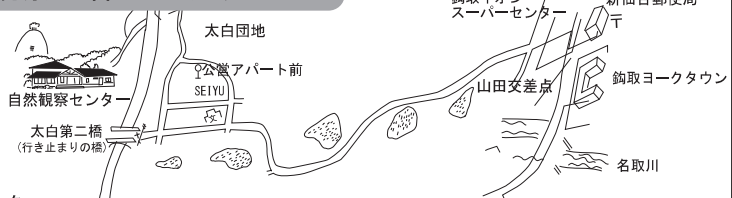
- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
(※③のみ乗車可「太白団地 山田自由ヶ丘経由仙台南ニュータウン行」)
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分



お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

観察の森へのアクセス



自然観察の森の最新情報、
「森のおくりもの」バックナンバーは
Webで！

「仙台市公園緑地協会」URL: <https://sendai-green-association-jp/green/taihakusan/>

2026年 2月号

発行：(公財)仙台市公園緑地協会

編集：仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133